

1 日常の学習状況・課題について

- (1) 授業アンケートの結果によると、「理科の授業は楽しい」と答えた生徒が70%以上おり、意欲的に授業に参加している様子が見られる。
- (2) 実験・観察については、約80%の生徒が意欲的に参加していると回答し、実験の準備から片付けまで、全員で協力することができている。しかし、実験結果や考察については、自ら考える力が十分に身に付いていない。
- (3) 定期テストの結果からは、知識・技能に関する内容が、計算や記述を伴う思考・判断・表現に関する問題は苦手としている生徒が多いことが分かる。

2 改善の計画

- (1) 実験結果のまとめや考察の記入では、実験レポートに結果の表やグラフの型を示したり、考察項目をあらかじめ記入したりすることで、書き方の模範がわかるよう指導する。2, 3学期には表やグラフなど、結果のまとめにふさわしい方法を自ら選び、さらに結果から考察に結び付ける指導を丁寧に行う。
- (2) ワークの計算問題を解説する時間や、さまざまな問題集の計算トレーニングに取り組む時間をつくる。また、普段の授業から自分の考えを言語化し、伝える時間を増やす。

3 非認知能力を高めるための手だて

- (1) 日常生活との結び付きを重視し、この単元を学ぶ意義、実験を行う目的などを生徒が自ら考えられるような授業の導入にする。
- (2) 身の回りの様々な現象に興味をもたせ、科学を自分事として捉えていけるようにする。

4 プランの評価方法

- (1) 2, 3学期末にも授業アンケートを行い、結果の変容を見る。
- (2) 定期テストの結果を教科内で共有し、次年度への参考とする。